

第2問

次に示した日商株式会社の〔資料〕にもとづいて、下の各問に答えなさい。当会計期間はX1年4月1日からX2年3月31日までの1年間である。

〔資料〕

1. X1年3月31日の決算にあたって作成した貸借対照表における純資産の部の各科目の金額は次のとおりであった。なお、この時点における発行済株式総数は100,000株である。

資本金	¥ 23,000,000	資本準備金	¥ 4,600,000	その他資本剰余金	¥ 1,150,000
利益準備金	¥ 1,090,000	別途積立金	¥ 650,000	繰越利益剰余金	¥ 1,940,000

2. X1年6月27日に定時株主総会を開催し、剰余金の配当および処分を次のように決定した。

- ① 株主への配当金について、繰越利益剰余金を財源として1株につき ¥8の配当を行う。
- ② 上記の配当に伴う利益準備金の計上は、会社法の定めによる。
- ③ 繰越利益剰余金を処分し、別途積立金 ¥100,000を積み立てる。

3. X1年11月1日、新株10,000株を1株につき ¥480で発行し、全額の払込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、会社法が定める最低限度額を資本金に計上した。

4. X2年1月31日、A社を吸収合併し、同社の諸資産（時価総額 ¥18,400,000）および諸負債（時価総額 ¥8,050,000）を引き継ぐとともに、合併の対価として新株22,000株（1株当りの時価は ¥500）を同社の株主へ交付した。なお、新株の交付に伴う純資産（株主資本）の増加額のうち ¥6,000,000を資本金に計上し、残額はその他資本剰余金として計上した。

5. X2年3月31日に決算を行い、当期純利益 ¥2,700,000を計上した。

問1 答案用紙の株主資本等変動計算書の空欄に適切な金額を答えなさい。なお、純資産の部の各科目が減少している場合は、金額の前に△を付して示すこと。単位は千円である。

問2 上記〔資料〕4の取引において計上されるのが、のれんか負ののれん発生益のいずれかを答えるとともに、その金額を答えなさい。